

## 東京電力福島第一原発事故から15年 福島事故を忘れない！ 柏崎刈羽原発再稼働は認められない！ 3・11長岡集会アピール

2011年3月11日の東京電力福島第一原発の過酷事故から、今日で15年になりました。福島では「帰還困難区域」が今も残され、5万人を超える人々が故郷に戻れないでいます。核燃料デブリの取り出しは困難を極め、ALPS 処理水の海洋放出も続くなど、原発事故を収束する目途は立っていません。原発はひとたび事故を起こせば、人々のいのちを危険にさらし生業や地域・ふるさとを奪い、一人一人のかけがえのない人生を破壊させてしまうことを福島第一原発事故が示しています。このような苦しみを二度と繰り返してはなりません。

世界最大出力の柏崎刈羽原発の再稼働は、とりわけ新潟県民にとって重大な問題です。「原発再稼働の是非は県民投票で決めてほしい」と143,196筆に込めた県民の願いに背を向け、県民投票条例案を否決した花角知事と県議会に対し県民の多くは納得していません。また、花角知事が「再稼働の是非は県民に信を問う」としてきた公約を投げ捨て、県議会に諮る形で柏崎刈羽原発再稼働容認判断をしたことに対し、昨年11月には全県から1,200人が駆け付け人間の鎖で県庁を包囲して「知事は公約を守れ」「県民に信を問え」と抗議の声をあげました。県民の意思を尊重する県政への転換が求められています。

多くの県民の反対や不安の声を押し切って、国と東電は今年1月に再稼働を強行しました。そして制御棒の不具合などの重大なトラブルが相次いで発生しています。また、30年目を迎える6号機の審査申請書類の提出の遅れや30か所もの記載の誤りが指摘されるなど、東京電力には原発を運転する能力も資格もないことが改めて明らかになっています。そもそも福島事故を起こした東京電力に原発を稼働させることが許されてよいのでしょうか。

柏崎刈羽原発では、テロ対策施設も避難道路も完成しておらず、徹底した安全点検も不十分なままで強引に稼働を始めました。稼働による事故の危険性は格段に高まります。ひとたび過酷事故が起きれば、30<sup>キロ</sup>圏内の長岡市はもちろん広範な地域の住民のいのちが脅かされ、くらしが立ち行かなくなることは明らかです。

この間、「市民の不安が解消されない限り、柏崎刈羽原発の再稼働をすべきではない」という公約を掲げている長岡市の磯田達伸市長は、県や知事に対して慎重な対応を求めてきました。原発から市民のいのちとくらしを守るためにあらゆる手立てを尽くしてください。

私たちは、県民置き去りの柏崎刈羽原発再稼働を認めることはできません。今すぐ起動を停止し、原発再稼働を断念するよう東京電力と国、県に強く求めます。

市民のみなさんに心から呼びかけます。原発のない新潟県を子や孫に残すために、力を合わせていきましょう！

2026年3月11日

東京電力福島第一原発事故から15年 3・11長岡集会